

切手偏見



- 見慣れた日常品の中に美を意識させてくれる NHKTV 番組「美の壺」で9月のはじめに切手が対象として放送された。放送では切手を鑑賞する壺として三つの壺が取り上げられた。
- ◎大胆なレイアウトに秘密あり(図案トリミング)
- ◎小さなキャンバスに彫刻の冴えあり(凹版印刷)
- ◎限られた色が創る無限の世界(微妙な色)

この三つの壺から、最近の切手が美的に向上し



左 鑑賞の壺 大胆なレイアウトに秘密あり(図案トリミング)の説明に使われた鳥居清長『雨中湯帰り』と1958年趣味週間切手

左下 鑑賞の壺 限られた色が創る無限の世界(微妙な色の再現)の説明に使われた速水御舟『炎舞』重要文化財(山種美術館)と近代美術シリーズ切手(1979年)

下 鑑賞の壺 小さなキャンバスに彫刻の冴えあり(凹版印刷)の中で凹版切手の傑作として黒色で彫刻の冴えを拡大して紹介された第2次国宝切手(1978年)東照宮陽明門



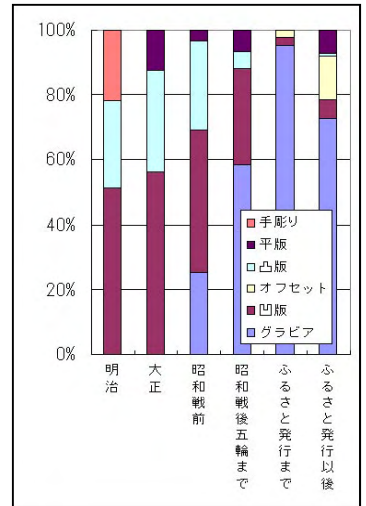
ているのか考えてみたいと思う。三つの壺のうち、一つ目の壺、**図案、トリミング**については意見が分かれるところであるが、最近のふるさと切手などは改善されたかと思える。さらに、三つ目の壺、**色**の再現につ

いては好みの問題はあるが色彩は豊かになっていることは確かである。

しかし、2番目の壺、**彫刻の冴えあり(凹版印刷)**については残念ながら壺の中身が減っていることは会員諸兄姉の心配するところ。この壺の中を少し調べてみたいと思う。

凹版印刷を取り出す前にすべての日本切手(ペーン、切手帳を除く4818種)をその印刷方式で調べてみた。加刷の整理の仕方等にもよるが印刷方式は上表のようになり、やはり7割がグラビア印刷で一番多くなっている。凹版印刷が10%と現在の切手発行からは意外と思われる数が発行されている。四十八文から現在までを大きく4時期に分けて印刷方式を分類すると上図に示す結果であった。戦前の凹版、戦後のグラビア主流の間

| 印刷方式 | 合計 | 広義分類 | |
|--------------|------|------|-------------|
| グラビア・メタリック | 5 | グラビア | 3617 71% |
| グラビア | 3259 | | |
| グラビア・エンボス | 32 | | |
| グラビア・凸版 | 37 | | |
| グラビア・ザンメル凹版 | 1 | 凹版 | 524 10% |
| グラビア・凹版 | 272 | | |
| グラビア・階調凹版 | 1 | | |
| グラビア・局式凹版 | 10 | | |
| ザンメル凹版 | 34 | | |
| 凹版 | 191 | | |
| 階調凹版 | 5 | | |
| 凹版・平版 | 8 | | |
| 階調凹版・ドライ7セット | 1 | | |
| 凹版・ドライ7セット | 1 | | |
| オフセット | 426 | 凸版 | 239 5% |
| 凸版 | 198 | | |
| 凸版・石版加刷 | 2 | 平版 | 291 6% |
| 凸版・凸版加刷 | 2 | | |
| 凸版・平版 | 2 | | |
| 平版 | 235 | | |
| 平版・エンボス | 10 | 手彫り | 45 1% |
| 平版・ホットスタンプ | 36 | | |
| 手彫り(凹版) | 45 | 手彫り | 45 |
| 総計 | 4813 | | |



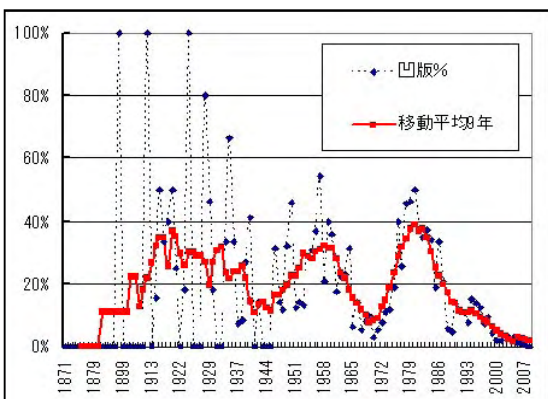
に10~30%程度は発行されていた凹版が徐々にグラビア、平版・オフセットにその割合を譲っていること

が明らかである。更に、9年毎に凹版印刷の割合を移動平均として図にすると下図のように一定の周期で3時期に凹版印刷が増加していることがわかる。

第1期は大正初期から戦前までの皇室関係の記念切手と通常切手の凹版が凸版印刷に伍してかなり発行された時期と言えよう。

第2期は凹版に初めてグラビア・凹版とザンメル凹版が発行され、ザンメル凹版切手が集中した時期であったといえる。また、この期間は国民体育大会切手の凹版印刷が始り、そして終わった時期であるのが注意される。

この第2期と第3期に移る谷間の時期(1966年)に低額の通常切手に美しく人気のある切手が4種発行されていることが注意される。第1次ローマ



第1期の凹版切手
初の凹版切手、凹版高額通常切手、40%が凹版で発行された第1次昭和切手の1枚「上高地」



第2期に発行された凹版・グラビア印刷、ザンメル凹版切手



凹版印刷、ザンメル凹版で13年間発行されていた国体切手



凹版印刷の美しい通常切手
比叡山延暦寺根本中堂
東大寺音声菩薩像

左上より
桂離宮
中尊寺迦陵頻伽

字入り切手の4枚である。(拡大して表示しますので美の壺を抑えていただければ)

第3期は凹版印刷が1984年に消えたが、グラビア・凹版印刷が各種シリーズ切手を中心に数多く発行され、新たに階調凹版、局所凹版印刷等が加わって発行され、広義の凹版印刷が一時期、再度復活するかと期待されたのが、平版、オフセットがこれに変わってくる傾向である。更に10種単位で記念切手が発行されるようでは、人のわざと努力に左右される切手は望むべくなく、第2の鑑賞の壺、彫刻の冴えは今後も期待できないことになっていくのであろうか。(編集子)



最後となっている純凹版印刷切手

参考文献： 世界の切手印刷 印刷局朝陽会
切手研究用語集 郵便文化振興協会

